



教育DXの取組

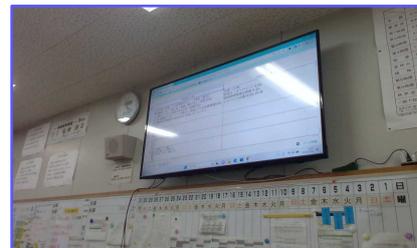


香美市では令和6年度から本格的に教育DXに取り組んでおり、「学びのDX」と「校務DX」に分け、授業・研修・校務が互いに関わり合うという考えのもと、DXを推進しています。今回は、特に働き方改革に直結する「校務DX」の取組を紹介します。

クラウドサービスを活用した校務の情報化

従来の情報共有の方法を改善するため、全校の職員室前方に65型のデジタルサイネージを設置し、行事黒板のデジタル化を進めました。予定や確認事項を事前に入力でき、記録としても残るため、振り返りも容易になっています。表示内容はGoogleスプレッドシートやカレンダーと連携させ、学校の要望に応じて運用しており、さらに、スプレッドシートからカレンダーへのデータ連携も可能にしました。

各校では、Google Workspaceを活用し、情報の一元化や共有を進めています。ポイントは「クラウド上で進行中のデータを共有すること」です。特にポータルサイトは、多くの学校で独自に作成し、教職員の毎朝の共有シートとして有効に活用しています。



生成AIを活用した業務の効率化

生成AIの発展は非常に速く、学習だけでなく校務においても積極的に取り入れていく必要があると考え、香美市では、学校業務に特化した「生成AIのプロンプト作成」を進めるため、小学校4校を市の研究指定校としています。

また、市の研修でも生成AIをテーマに扱い、香美市教育研究所のブックマークでは学校現場で有用な生成AIを紹介するなど、市内の教職員が利用できる環境を整えています。

さらに、外部団体やYouTubeなどによる学習機会も増えていますが、市内の教職員が中心となって活動する研究団体「高知県教育イノベーションラボ」でも、研修の機会を設けています。

国の調査や資料を活用した啓発

文部科学省が作成している「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の自己点検結果では、「教員と保護者間の連絡」、「教員と児童生徒間の連絡」、「学校内の連絡」など、各項目において改善が見られました。特に学校間の連絡については、ポータルサイトや校内チャットの活用が日常化しています。

また、デジタル庁など4省庁が公表した「教育DXロードマップ（12のやめることリスト）～デジタルに変えること～」を再確認するよう、市から各校へ呼びかけています。

- ① 電話等による児童生徒の欠席連絡等の受付
- ② 紙での保護者への調査・アンケート
- ③ 紙での各種調査票等の学校から保護者への配布・保護者から学校への回収
- ④ 紙での教職員への調査・アンケート
- ⑤ 新入学児童生徒の名簿情報の校務支援システムへの不必要な手入力
- ⑥ 電話や書面による保護者との日程調整
- ⑦ 職員会議等資料の紙での共有
- ⑧ 紙での児童生徒への調査・アンケート
- ⑨ 学校から保護者へ発信するお便り等の紙での配布
- ⑩ 教職員が作成した教材等の各自での保存
- ⑪ 学校徴収金の現金徴収
- ⑫ 紙での学校内外の行事日程や特別教室等に係る利用予約等の管理